

1. 地域の課題とこれまでの活動

これまでの活動

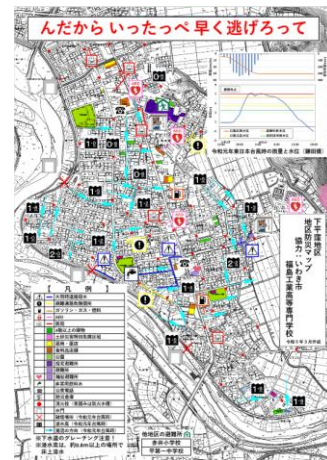
福島県いわき市平窪地区は令和元年東日本台風で甚大な被害を受けた地域である。
下平窪地区では、**災害を風化させない**取り組みとして、地区防災マップ、地区防災計画、アナデジサイネージの作成を行ってきた。

・地区防災マップ

地区住民・福島高専・いわき市でまちあるきを実施し、被災した当時の浸水深さや洪水の流れの方向を掲載したマップを作成した。

・地区防災計画

作成したマップをもとに、災害時の対応やアナデジサイネージの活用についてまとめ、地区防災計画を立てた。



地区防災マップ

・アナデジサイネージ

地区全体を**水害伝承エリア**とするべく、過去・現在・未来を繋げるコミュニケーションツールとして、地区内26カ所（小学校、公園、防犯灯、電柱、スーパー、個人宅など）に設置

アナログ情報

令和元年東日本台風時の浸水深さ・洪水の流れの方向

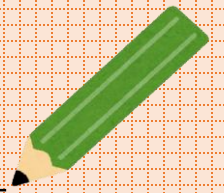
デジタル情報

地区防災マップ・令和元年東日本台風時の写真・国土交通省川の防災情報・気象庁キキクル



アナデジサイネージ

2. サイネージを設置してみて…



サイネージ設置後の住民の声

ここからが本当のスタート。
地区防災マップ，地区防災計画，
アナデジサイネージと地区がもっ
ているコンテンツをどのように活
かしていくのかを考えたい。

今までの防災活動は自主防災組織
が中心となり，年齢が高いメン
バーが多い。それだけでなく幅広
い世代で地区の防災・減災と向き
合いたい。

課題

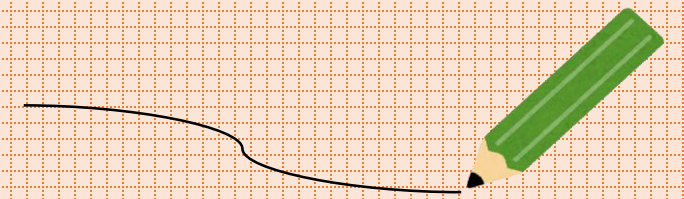
- ・ アナデジサイネージの活用方法
- ・ 幅広い世代での防災教育

学校の縦のつながりを利用して，令和元年東日本
台風を記憶している世代（高学年）と記憶してい
ない世代（低学年）とが保護者も巻き込んで学び
合う。そこに横のつながりとして，地域の自主防
災組織がかみ合うことによって，地区全体での三
世代での防災の学びの環境が出来上がる。

アナデジサイネージを教育，コミュニケーション
ツールとして最大限活用し，

生涯学べる三世代の学びの場を作る！！

3. アイデア提案までの流れ



Plan

地区防災マップ
地区防災計画 作成

被災地だからできる
防災・減災活動の実施

Do

アナデジサイネージ
設置

令和元年東日本台風を
「風化」させない取り組み

Check

ヒアリング調査

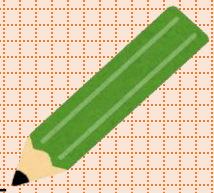
地域で継続的に
利用されていくことが必要

Action

改善案としての
アイデア決定

小学校での
三世代防災教育の実施へ

4. アイデアの概要



水害伝承エリアのアナデジサイネージを活用した三世代防災教育

水害の記憶がない子世代と記憶のある親世代が共に学ぶ縦のつながり

×

地区防災マップ・地区防災計画・アナデジサイネージについて語れる自主防災組織と共に学ぶ横のつながり

● 事前学習（高学年生）

水害発生時の状況や感じたことを家族・友人と共有して、低学年生に伝えたいこととしてまとめる。
（特にアナデジサイネージの設置箇所についてまとめる。）

● フィールドワーク（低・高学年生、保護者、自主防災組織・地区住民）

アナデジサイネージの設置箇所を数か所ピックアップして、班に分かれてスタンプラリーをする。

→高学年生は事前学習で出た水害時の経験とアナデジサイネージが結びつくか考えながらフィールドワークをする。

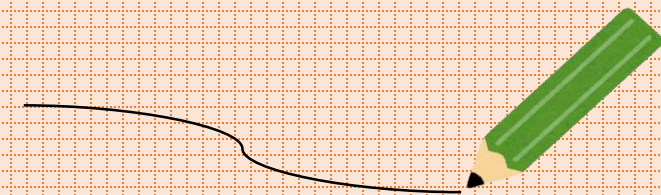
→QRコード内の当時の写真と現在の様子を比較してどう変化したか、どのような対策がなされたかを自主防災組織の方から話を聞く。

● 事後学習（低学年生）

高学年生や自主防災組織の方から伝えてもらった情報をまとめ、家族や友人、地区住民に伝えて共有する。

→地区住民や保護者を招いて発表する機会があれば、低学年生に学んだことを発表してもらう。

5. 期待される効果



防災を“じぶんごと”として考えられる人づくり・まちづくりに貢献できる

いわき市は平窪地区が大きな被害に遭った令和元年度東日本台風だけではなく、東日本大震災や令和五年の線状降水帯など、様々な自然災害に見舞われている。また、自然災害はいつ起こるかの予測が困難である。

→アナデジサイネージによるフィールドワークは被災経験の有無にかかわらず、防災をじぶんごととして考えるきっかけになる。

● 家族間

普段生活している中にアナデジサイネージがあり、それを活用したイベントを開催することで、日常生活の中に自然に溶け込んだ防災・減災となり、家族間の会話の話題の一つとなることで平常時の学びへと繋がる。

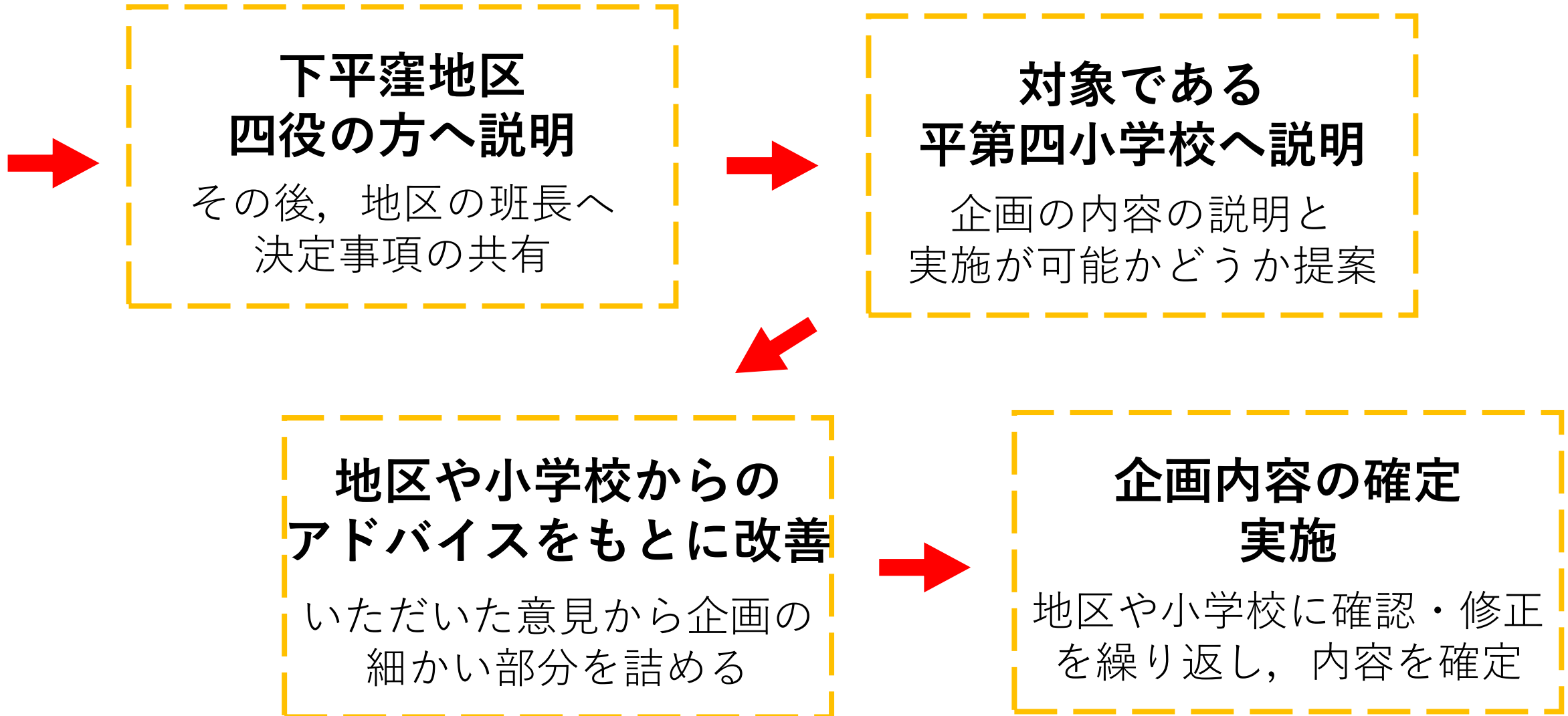
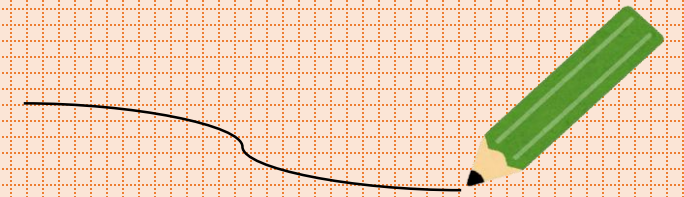
● 地域間

アナデジサイネージを通した学びの機会によって、コロナ禍によって衰退していた地域コミュニティが活性化し、防災・減災だけでなく日常の安全や防災にも繋がる。

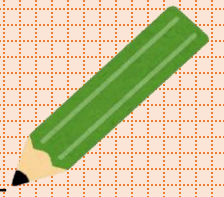
● 子供たちの考え方の変化への期待

自分たちが経験していない災害について触れることで災害への知識をつけるとともに、災害が「過去やフィクションのもの」から「いつでも起こりうるもの」として危機意識を持つことに繋がる。

6. アイデア実施までの流れ



7. ステークホルダーへのヒアリング



● 下平窪 区の四役の方

8月5日(月)

下平窪地区に設置したアナデジサイネージの今後の活用方法について、ヒアリングを行った。

[区の四役の方の意見]

- ・現状としては、サイネージを設置できたという達成感もあり、今後の活用に関しての具体的なビジョンが持てていない。
- ・災害を「じぶんごと」として考えられるイベントにしていきたい。
- ・地域住民間で自発的に実施し、課題を見つけられるような形も大事にしたい。

[得られた課題]

- ・企画の主体はどこが担うのか（高専、平窪地区、小学校、市役所）。負担感の少なく、防災疲れにならない内容に進めていけることも重要。
- ・年度の途中で、すでに予定されているイベントもあるため、12月までにイベントを企画・実施するのは難しい。

● 平第四小学校 教頭先生

9月27日(金)

今回のアイデアについての説明と提案を含めた、アイデアの実施に関するヒアリングを行った。

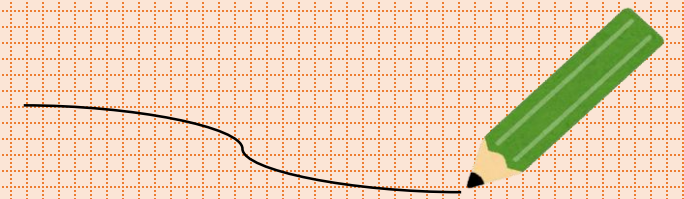
[平第四小学校の意見]

- ・小学校では、年度ごとに主に実施するイベントや授業を決めるため、12月はもちろん、今年度に組み込むのも難しいかもしれない。
- ・小学6年生（被災当時小学1年生）を対象として実施し、低学年は今後の検討事項とする。
- ・小学6年生は実際に被災している子もいるため、トラウマなどの精神面での配慮が必要。

[得られた課題]

- ・小学校では行事を前年の2月や3月からデザインしているため、そこに新たなイベントを組み込んでもらうのは難しい。
- ・初めての試みであるため実施しやすい対象学年を決定
- ・実際に被災した小学生の精神面を考慮して、使用する写真や動画の選定が必要

8. メンターミーティング



● 審査員コメントと気づき

- ・ **小学生の興味**を引き付けるため、アナデジサイネージの改良や機能追加が必要ではないか？
→ 継続的な地域での企画運用やパッケージ化を見込むのであれば、小学生にこれならやりたいと思ってもらえるような機能を追加すべき。
- ・ 同じスキームでいろいろな災害リスクを抱えて地域で活用できるような**汎用性**のある形の発見できると良い。
→ 視野をコンテストで対象としている地区だけでなく、全国の災害リスクを抱えた地区に広げて、現在だけでなくこれからの活用についても考えていくべき。

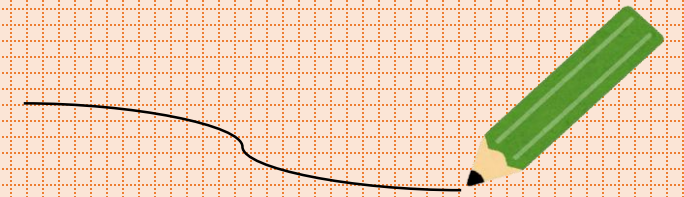
● メンターミーティング第1回

- ・ 対象の学年を6年生に絞るとすると1年生の防災学習はどうするべきか。
→ 防災のイベントではなく、小学校の授業で行う、町の危険な所を見てまわるまちあるきに防災の要素を取り入れてもらうことで、**交通安全・防犯・防災を融合**して学ぶことができる。
- ・ **ニーズ主導**で活動し、ニーズを反映したものであることを示す記録を取るべき。
→ これから企画を実施・運営するにあたり、今までよりもニーズに沿ったものとするために**アンケート**を行ったり、ランダムで地域の人に**ヒアリング**を行ったりしてデータとしてまとめる必要がある。

● メンターミーティング第2回

- ・ 災害時だけでなく**平時**にもサイネージを使ってもらう工夫が必要。
→ サイネージは情報を見るためにQRコードを読み取っておく必要があるため、災害が起こってからでは遅い。
- ・ 市との連携も視野に入れた運営

9. 気づきと課題の解決策



12月までにイベントを組み込むことは難しい

→ **来年の2月**にアイデアを実施予定

小学1年生を対象学年とするのは早い

→ 地図が読める小学2, 3年生を対象とする必要性

子どもの精神面を考慮した動画や画像の選定

→ QRコード内の写真フォルダは福島高専で編集できるため、企画を実施する際は**一部非表示**にする

小学生の興味を引くための改良や機能追加

企画を実施する際は、**臨時のQRコード**をシールで作成し貼り付けて、
→ そこに**防災クイズ**を入れることで、楽しみながら防災について学んでもらう

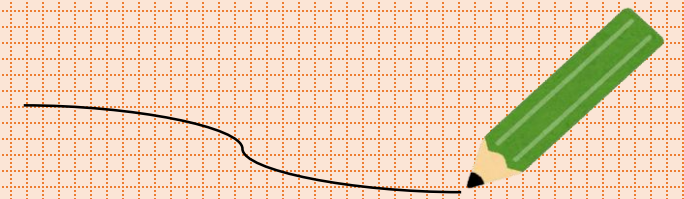
災害時だけでなく、平時にもサイネージを利用してもらう工夫

→ **回覧板**など日常で使用するものと合わせることでより地域に溶け込ませる

市との連携を視野に入れた運営

→ 市が行っている**登録防災士制度**と連携することで、他の地域での運営につなげる

10. 今後の展望



2024年12月

平第四小学校 6 年生担任との打ち合わせ

2025年 2 月

平第四小学校 6 年生を対象にアイデアを実施

次年度からも**継続**して
行えるようパッケージ化

ゲーム要素を加え
地区の**イベント**展開

登録防災士制度と連携
いわき市全体に広げ、
スキルアップの場とする

日常での活用で
地域に溶け込む取り組み

「生涯学べる（三世代）学びの場」を通して

「災害発生時に各自が率先して動けるまちづくり」へつなげる